PART2　なりの識別（基本編）

「なり」の識別

【識別対象】

1 「　　」の「なる」
2 「　　　　」ナリ活用の活用語尾
3 「　　　」・**存在の助動詞**「なり」
4 「　　・　　」**の助動詞**「なり」

〈見分け方〉＝「　　　」

1 「　　」と訳せる＝ラ行四段活用**動詞**「なる」
「　」「　　」「　　」「　　」に付くことが多い。

2 「　・　　」＋なり＝**形容動詞**ナリ活用の活用語尾
「　」「　」「　　」に付くことが多い。

3 「　　」か「　　形」＋なり＝**断定・存在の助動詞**「なり」

4 「　　形」（ラ変型＝「　　形」）＋なり＝**伝聞・推定の助動詞**「なり」

問二　傍線の「なり」を、文法的に分類した組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

はかなく①なりし人の領ずる所にて、…
ある聖の物に②なりてと聞きしを、…
さまざま思ひ出づることなど、言ふもなかなか③なり。
露消えし跡は野原と④なりはててありしにも似ず荒れはてにけり

A　①と②③④　　B　①②と③④　　C　①②③と④
D　①②④と③　　E　①③④と②

問三　傍線（１）・（２）の文法的な説明として、最も適当なものを次の中から選べ。＊（３）は不要。

「事悪しく（1）なりなんかし」と思ふに、…
命も延びぬべき様し給へる人（2）なり。
聞き入れさせ給はざん（3）なりと承るを、…

A　ラ行四段動詞　　B　形容動詞語尾　　C　断定の助動詞
D　伝聞の助動詞　　E　推定の助動詞

（１）＝　　　（２）＝

第12講　PART2　確認問題

① 傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

「京にとくあげ給ひて、物語の多く候ふなる、ある限り見せ給へ。」と、…

ア　たくさんあると聞いております物語を
イ　たくさんございました物語を
ウ　物語がたくさんあるのでしょうか
エ　物語が多くあったにちがいありません

② 傍線部のうち断定の助動詞であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

かくて翁やうやう豊かにア なり行く。この児（ちご）、養ふ程に、すくすくと大きにイ なりまさる。三月ばかりにウ なる程に、よき程エ なる人に成りぬれば、…

③「祭り近くなりて、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞　イ　伝聞の助動詞　ウ　推定の助動詞
エ　四段活用動詞　オ　ラ行変格活用動詞　カ　形容動詞

④傍線部ａ・ｂの文法的な説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

家の造りやうは、夏をむねとすべし。冬はいかなる[a]所にも住まる。暑きころわろき住居は、たへがたき事なり[b]。

ア　ａ　ラ行四段活用動詞　ｂ　推定の助動詞
イ　ａ　形容動詞の活用語尾　ｂ　断定の助動詞
ウ　ａ　ラ行四段活用動詞　ｂ　断定の助動詞
エ　ａ　形容動詞の活用語尾　ｂ　伝聞の助動詞

⑤「あらしに散れる木の葉なりけり」の傍線部「なり」と文法上同じものはどれか。最も適当なものを、次の中から選べ。

きよげなる[ア]法師二三人ばかり据ゑ(す)て、いみじくをかしげなり[イ]し人、几帳のつらに添ひ臥(ふ)して、このゐたる法師近くよびてもの言ふ。何事ならむ[ウ]と聞き分くべきほどにもあらねど、尼にならむ[エ]とかたらふけしきにやと、…

第12講　PART2　解答

問二　D

問三　(1)　A　(2)　C

第12講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 断定の助動詞「なり」か伝聞の助動詞「なり」かを見分ける。「候ふ」はハ行四段活用動詞の終止形もしくは連体形だが、この場合連体形に接続する断定の「なり」となる訳が選択肢には存在しない。よって、「候ふ」は終止形で終止形に接続するのは伝聞の助動詞であるから、「〜と聞いている」などと訳しているものを選ぶ。

② アはラ行四段活用動詞「なる」の連用形、イは複合動詞「なりまさる」の一部、ウはラ行四段活用動詞の連体形。エの「なる」は体言に接続しているので、断定の助動詞「なり」の連体形。

③ 傍線部の上は形容詞「近し」の連用形。ア〜ウの助動詞は連用形には接続しないので不適。傍線部の「なり」はラ行四段活用動詞「なる」の連用形。

④ ａは形容動詞ナリ活用「いかなり」の活用語尾。ｂは体言に接続しているので断定の助動詞。よって、イが正解。

⑤ 例文の傍線部「なり」は断定の助動詞で体言・活用語の連体形に接続する。ア、イは形容動詞の活用語尾、エはラ行四段活用動詞「なる」の未然形。ウは体言に接続しているので断定の助動詞。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② エ　③ エ　④ イ　⑤ ウ